

米雇用市場の減速感がみられた、雇用統計

ポイント① 米雇用市場はひつ迫度合が緩和

米労働省が8日に発表した2月の米雇用統計は、非農業部門就業者数が前月比27.5万人増と市場予想（同20.0万人増）を上回りましたが、過去2か月の就業者数は下方修正されました。事業所ベースの調査である就業者数は堅調に推移したものの、家計調査における失業率が3.9%と1月から0.2%上昇し、減速感がみられる結果となりました。平均時給は前年同月比+4.3%と1月から0.1%鈍化し、賃金上昇圧力が和らぎました。

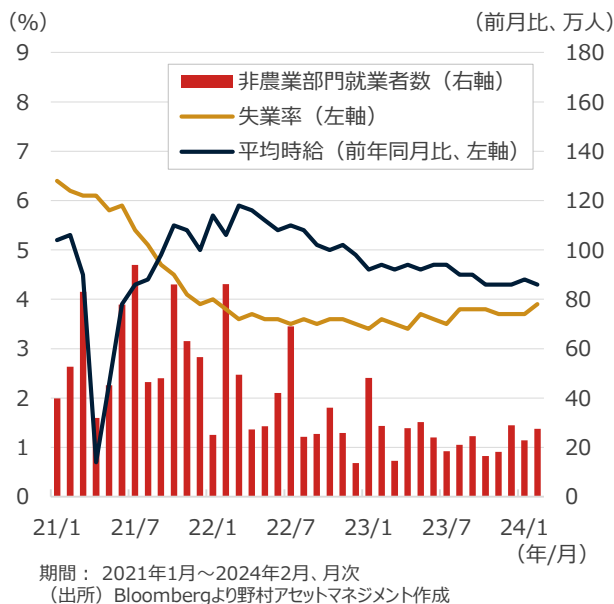
ポイント② 米製造業の雇用減速が続く

2月の米ISM景況感指数を見ると、非製造業の全体指数は52.6と好不況の分かれ目の50を上回りました。雇用面では「適切な人材が採用できない」とのコメントが出ていることなどから、サービス業の雇用情勢は底堅いようです。一方、製造業については、全体指数が47.8と16か月連続で50を下回ったことに加え、雇用指数も大きく低迷が続いています。雇用統計でもサービス業が雇用を支えている一方、製造業は低調に推移するなど、同じような状況が確認されており、製造業中心に米雇用市場が徐々に減速している様子が窺えます。

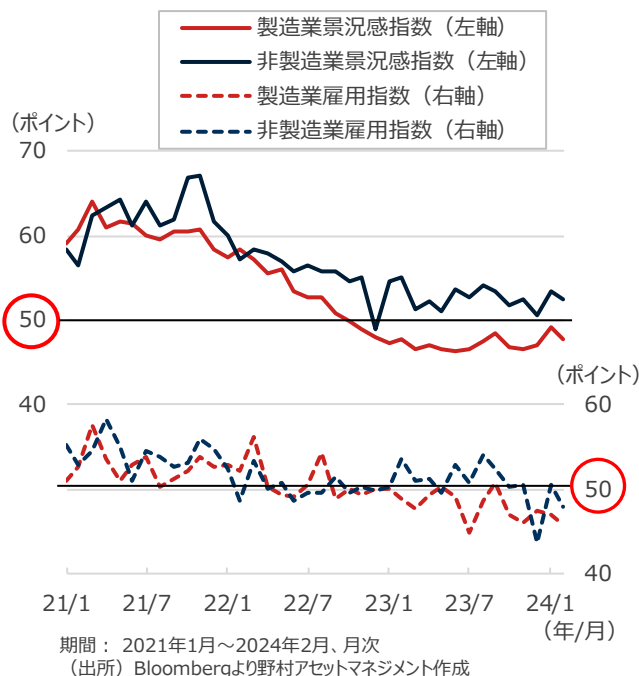
ポイント③ 今後のCPIとFOMCに注目

8日の金融市場では、米雇用統計が、FRB（米連邦準備制度理事会）の金融政策の方向性を確認できる内容ではなかったとして、大きな影響はありませんでした。市場では、FRBの利下げ開始の時期を見極めているようです。今週発表される米CPI（消費者物価指数）や来週開催予定のFOMC（米連邦公開市場委員会）などに注目が集まります。

米非農業部門就業者数・失業率・平均時給の推移



米ISM (サプライマネジメント協会) 景況感指数と雇用指数の推移



重要イベント
3月12日 米消費者物価指数 (2月)
3月20日 米金融政策発表